

新国立劇場 2014/2015 シーズン ダンス公演

## 森山開次 「サーカス」

2015年6月20日(土)3:30、21日(日)11:30/3:30、24日(水)7:00、  
25日(木)7:00、27日(土)3:30、28日(日)11:30/3:30 (全8回公演)

新国立劇場 小劇場

永遠の子どもたちと未来の大人たちへお届けする、  
目が眩む程きらびやかな、魔法の時間。

2012年に新国立劇場で上演した「曼荼羅の宇宙」で各賞を受賞した森山開次が、3年ぶりに新国立劇場で発表する最新作。NHK 教育番組「からだであそぼ」の人気コーナー「踊る内臓」や、ダンス・パフォーマンス「LIVE BONE」を生んだ美術・衣裳・音楽スタッフ、そしてバレリーナ、元体操選手、大道芸のパフォーマーなど活動ジャンルも多様な個性豊かな出演者とともに、ダンス作品を創造します。親子で楽しむ、舞台と客席が一体となった舞台にどうぞご期待ください。

幼い頃、ピエロの踊る姿に憧れた。  
永遠の子どもたちの特別な場所がある。  
未来の大人たちの秘密の場所がある。  
息をひそめて覗き込み、胸をふくらませ飛びこんだ、そこはサーカス。

森山開次



Photo: Isamu Uehara

**写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ**

©新国立劇場 制作部舞踊 広報担当 中尾久美子

TEL : 03-5352-5735 / FAX : 03-5352-5709

 **新国立劇場**  
NEW NATIONAL THEATRE TOKYO

## 森山開次インタビュー記事（新国立劇場会報誌『The Atre』より転載）

—森山さんのダンスといえば、しなやかでシャープな身体とストイックな精神性が思い浮かびます。「サーカス」をテーマに演出・振付・アートディレクションをとるのは、これまでと異なる印象を受けます。

**森山** 僕は新国立劇場で様々な作品を創っていて、前作の『曼荼羅の世界』では芸術選奨文部科学大臣新人賞、江口隆哉賞などいくつもの賞をいただきました。妄想も含めてどんどん湧いてくる想像力をいかして、思い描く世界をダンスにしてきました。自分でも、人を笑わせるとか、おどけてみせるタイプではないな、と思っていました。だから、2012年にNHKテレビで、旅に出て何かに挑戦するという番組に出演したとき、あえて気質とは違うことに挑戦しようと、ニューヨークのクラウン（道化師）・ワークショップに参加しました。アメリカのクラウンは、ヨーロッパのどこか物悲しかったり、シュールだったりするピエロとはちょっと違うんですよ。大道芸的、エンターテインメント的というか、言葉をしゃべったり、コントをすることもあります。場所もいろいろで、地下鉄の中でゲリラ的にパフォーマンスをしたり、ケアクラウンといって入院している子供たちのところへ行って楽しませることもしました。人を笑わせるのは難しいけれど、面白かったんです。

—今回は、大人も子供も楽しめる作品になるそうですね。

**森山** NHKテレビの子ども向け番組「からだであそぼ」に長く出演していたので、そこでも人を楽しませる、笑わせるようなダンスを踊っていたんですよ。全身タイツを着て体でいろんなものを表現する中で、「踊る内臓」という人気コーナーがありました。内臓からついには骨になって、番組を飛び出して『LIVE BONE』というパフォーマンスになり、衣裳を担当したひびのこづえさん、音楽を担当した川瀬浩介さんと一緒に各地をツアーしています。

—ひびのさん、川瀬さんが今回もスタッフに加わって、森山さんの「サーカス」の世界を創るんですね。

**森山** 彼らの衣裳、音楽と共演するのが、ユニークな出演者たちです。コンテンポラリーダンサー、バレリーナ、元新体操選手、大道芸のパフォーマーもいます。今はサーカス自体が変わってきていますよね。シルク・ドゥ・ソレイユのように大規模なエンターテインメントもあれば、演劇を取り入れたアートっぽいものもある。もともと僕はミュージカルを通してダンスを始めたので、アートとエンターテインメントの区別がほとんどないんです。今回はダンスを軸にしながらひねりをきかせて、大人も子供も楽しめる作品にしようと思っています。

—今回は様々なジャンルのダンサー、パフォーマーと共演するそうですね。

**森山** サーカスは火を噴く大男がいたり、身軽な綱渡りや猛獣遣いがいたりと、一芸に秀でた人の集まりですよ。彼らの芸が大きな見せ場であり、観客の驚きにつながる。一方

でピエロ、クラウンと呼ばれる人は踊ったり、演技もできるオールラウンドプレーヤーです。芸の見せ場もあるけど、むしろ曲芸を引き立たせるために、曲芸師と観客の間に入ってつないでいく仲介者のような役割があります。どういう風に観客を作品に引き込むかを考えるのは、ダンスも同じ。だから今回の作品では、バレリーナが舞台の中央でクルクル回転したり、大道芸のパフォーマンスがあるかもしれないし、クラウンのようにお客さんを作品に引き込んでいくダンサーがいるかもしれない。出演者がひとつの役割に固定されず、それぞれの個性を發揮しながら、でもダンスとしてまとまっていく作品にしたいと考えています。

—「サーカス」の世界をダンスで描くのではなく、観客と舞台の間にある関係性を考えながら創っていくのですね。

**森山** もちろんサーカスの情景や、ピエロの悲しみが伝わるようなシーンもあると思いますが、もう少し違う夢を見られる情景が出てきたり、今いる世界と夢の世界を行ったり来たりできるようにしたいですね。NHK 教育番組「からだであそぼ」から飛び出した「LIVE BONE」という公演では、舞台を子どもたちに囲んでもらって、いろんな状況の中で踊り、演じながら全国を回ってきました。今回も、小劇場の舞台を客席が囲む配置にしようと考えています。

—チラシに使われている可愛いイラストは、森山さんが描かれたものそうですね。

**森山** 僕は絵を描いていると時間を忘れる方で、どんどん想像力が湧いてくる。このイラストも描いては切り抜いて、動かしたり、重ねたりしながらアイデアを膨らませています。今、考えているのは「さかさまにする」こと。最初にサーカスって何だろう、と考えたとき、観客にとっては驚き、ドキドキすることだけど、僕にとっては身体的に逆立ちが起源だと思ったんです。小学生のとき体操競技をしていたことありますが、逆立ちするとなんだか嬉しかった。世の中が反対に見える楽しさとか、重力が逆さになるとか。それで、よく兄と競争していました。今度の作品では、「さかさま」と言ってもアクロバットではなく、ダンサーが寝ていれば、雲みたいにふわふわ浮かんでいるように見えたり、鳥のように飛んで見えるかもしれない。音楽ならメロディを逆さにしたり、言葉なら「トマト」や「しんぶんし」など逆さまにしても変わらないものがあるかもしれない。僕はあまりコミュニケーションが得意ではないけれど、踊りによって人との付き合いができるようになってきました。体で表現することで何かを伝えたり、教えることができます。今度の作品も、子どもから大人までいろいろな人に見てもらい、「こんなサーカスもあるのか」って固定観念を壊すような作品にしたいと思っています。

## ◎プロフィール

### <振付・出演・アートディレクション>

#### 森山 開次 Moriyama Kaiji



21歳でダンスを始め、2001年ソロ作品の発表を開始。2005年「KATANA」で「驚異のダンサー」（ニューヨークタイムズ紙）と評され、2007年ベネチアビエンナーレ招聘。2012年『曼荼羅の宇宙』で芸術選奨文部科学大臣新人賞、江口隆哉賞、松山バレエ団顕彰・芸術奨励賞を受賞。

演劇・映画・写真作品等幅広い媒体での身体表現に積極的に取り組んでいる。「情熱大陸」「からだであそぼ」等メディア出演も多い。平成25年度文化庁文化交流使。

（写真：石塚定人）

### <出演者>

#### 浅沼 圭 Asanuma Kei



©aki

東京生まれ。母の影響で物心つく前から新体操を始める。ウーマンズ新体操クラブ出身、東京女子体育大学研究生卒業。ジュニアでは団体選手として日本代表、シニアでは個人選手として独特な表現を武器とし注目を浴び、北京五輪の強化選手に選出される。現役引退後はシルヴィギエムにシンパシーを感じ、2012年より単身渡英する。ロンドンのラッセルマリファント・ダンスカンパニーをはじめ、様々な国のダンスカンパニーを巡りながら自身を磨く。帰国後も様々な舞台に立ちながら、身体と戯れる日々が続いている。

#### 竹田 仁美 Takeda Hitomi



新潟県出身。4歳からシンガポールでバレエを始め、野口翠子バレエスタジオ、白鳥バレエ学園で学ぶ。2002年ローザンヌ国際バレエ・コンクールでエスポワール賞を受賞、06年ヴァルナ国際バレエ・コンクールでは5位に入賞した。07年米ヒューストン・バレエ団に入団し、「くるみ割り人形」



金平糖、クララやS. ウェルチ振付作品などソリスト役を数多く踊る。12年帰国し、新国立劇場バレエ団ファースト・アーティストとしてアシュトン「シンデレラ」秋の精、ピントレー「シルヴィア」マーズ、「E=mc<sup>2</sup>」光速の二乗、金森穰「solo for 2」ほかに出演。14年秋よりNBAバレエ団に入団、ソリストとして踊っている。

### 谷口 界 Taniguchi Kai



幼い頃より器械体操を学び、20歳の時に独学で大道芸を始めた後に「沢入国際サーカス学校」にて逆立ち芸やジャグリングを学ぶ。在学中に『東京国際フル祭』『勝ってたまるか剣振丸』等の公演に参加したことから舞台やダンスに興味を持ち、2012年「舞台芸術の学校 P. A. I.」に入学。2年間コンテンポラリーダンスや舞台演出を学ぶ。現在はフリーのパフォーマーとして活動する傍ら、小池博史ブリッジプロジェクト『銀河鉄道』『風の又三郎』ツアーにも参加するなど、大道芸から舞台まで幅広く活躍。



2013年に結成されたサーカスカンパニー「イル・スペオピーレ」の旗揚げメンバーでもある。

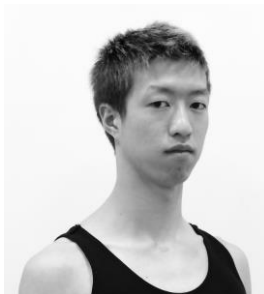
### 引間 文佳 Hikima Ayaka

6歳より新体操を横田容子、佐藤昌子らに師事。東京女子体育大学在学中に全日本選手権で団体総合優勝。日本代表として、ユニバーシアード国際試合にて準優勝。22歳でコンテンポラリーダンスと出会う。新体操で培ったしなやかで強靱な身体性を基軸にした、ジャンルに囚われない自由な表現を日々模索中。2015年東京芸術劇場ダンスファーム「近藤良平のモダン・タイムス」に出演。

©大洞博靖



## 水島晃太郎 Mizushima Kotaro



©小堀詠美

2000年より和田朝子に師事し、クラシックバレエとモダンダンスを学ぶ。第42回埼玉全国舞踊コンクールモダンダンスジュニア部門にて第1位を受賞。2010年に筑波大学に入学し、新国立劇場ダンステアトロン No.19 平山素子「ストラヴィンスキーイブニング」の『兵士の物語』に道化として出演。2012年、第31回あきた全国舞踊祭モダンダンスコンクールシニア部門にて自作ソロ作品「ブルー」で第3位。その他、多くのイベントや舞台、映像作品に出演し活動の場を広げている。現在、筑波大学大学院人間総合科学研究科に所属。



## 宮河愛一郎 Miyagawa Aiichiro



関東国際高等学校演劇科卒業後、単身渡米ニューヨーク Ailey School に留学。GAP の TV コマーシャル出演など様々な舞台でキャリアを積む。2003年劇団四季のアイーダのオリジナルキャストとして年間320ステージに出演。2005年コンテンポラリーダンスカンパニーNoismに入団、ダンサー兼バレエマスター、ワークショップ担当を任せられ国内ツアーほか、海外7カ国、10都市での公演すべての作品に出演。2013年8年間在籍してきたNoismを退団後はダンサー、振付家、指導者、俳優として活動中。

photo by yuuri manabe

## ＜美術・衣裳＞

### ひびのこづえ Hibino Kodue

静岡県生まれ。東京芸術大学美術学部デザイン科卒業。コスチューム・アーティストとして広告、演劇、ダンス、バレエ、映画、テレビなど、その発表の場は多岐にわたる。毎日ファッション大賞新人賞、資生堂奨励賞受賞 他展覧会数。1997年作家名を内藤こづえより改める。NHK教育テレビ「にほんごであそぼ」のセット衣裳を担当中。歌舞伎「野田版 研ぎ辰の討たれ」、野田秀樹作・演出「ザ・キャラクター」などのほか、新国立劇場ではオペラ「さまよえるオランダ人」、こどものためのオペラ劇場「ジークフリートの冒険」「スペース・トゥーランドット」、ダンス公演・菊池純子「メタモルフォシス」、演劇公演・野田秀樹「價作・桜の森の満開の下」の衣裳を手がけた。森山開次とは、NHK教育テレビ「からだであそぼ」、パフォーマンス・劇場版などの「LIVE BONE」シリーズでコラボレーションを行っている。<http://haction.co.jp/kodue/>

## ＜音楽＞

### 川瀬 浩介 Kawase Kohske

作曲家・美術家。1970年 京都生まれ 東京育ち。2002年光のための音楽《Long Autumn Sweet Thing》を発表し、デビュー。05年、愛知万博で発表された映像作品《ポピュラスケープ》の音楽を担当。その雄大でロマンティックな楽曲は「この映像世界に魂を吹き込んだ」と評された。10年、第13回文化庁メディア芸術祭に、代表作《ベアリング・グロッケン II》が出展され話題に。12年、東京スカイツリーで催されたイルミネーションイベントにて最新作《光の音色～a tone of light》を発表。NHK教育テレビ「からだであそぼ～踊る内臓」の音楽を担当し、森山開次、ひびのこづえと「LIVE BONE」シリーズでツアーを共にしている。デビュー以来、「間口が広く奥行きのあるもの」を追求している。「あなたの心に眠る感動を呼び覚ますこと——それが私の使命です」<http://www.kawasekohske.info>

## ◎公演概要

- 【タイトル】 森山開次「サーカス」
- 【スタッフ】 演出・振付・アートディレクション：森山開次  
音楽：川瀬浩介 美術・衣裳：ひびのこづえ 映像：ムーチヨ村松  
照明：櫛田晃代 舞台監督：柴崎大
- 【出演】 森山開次、浅沼圭、竹田仁美、谷口界、引間文佳、水島晃太郎、宮河愛一郎
- 【会場】 新国立劇場 小劇場（京王新線 新宿駅より1 駅、初台駅中央口直結）
- 【公演日程】 2015 年 6 月 20 日(土)3:30 / 21(日)11:30/3:30 /  
24 日(水)7:00 / 25 日(木)7:00 /  
27 日(土)3:30 / 28(日)11:30/3:30
- 【チケット】 2015 年 4 月 18 日(土)10:00 発売開始
- 【料金】 大人 A 席:5,400 円 B 席:3,240 円  
こども(小・中学生) A 席:2,700 円 B 席:1,620 円

◎チケットのお求め・お問い合わせは

新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999

新国立劇場 Web ボックスオフィス <http://pia.jp/nntt>

◎チケット取扱い チケットぴあ、イープラス、CN プレイガイド、ローソンチケット ほか

\*当日学生割引(50%割引)<Z席を除く> 残席がある場合のみ、公演当日ボックスオフィスとチケットぴあ一部店舗で販売。一人一枚。電話予約不可。要学生証。

\*新国立劇場では、高齢者割引(5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています